

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 6 年度 第 1 向日向市総合計画審議会
開 催 日 時	令和 6 年 5 月 2 0 日（月曜日）15:30～17:00
開 催 場 所	日向市役所 4 階委員会室
出 席 者	別紙名簿参照 欠席者：鈴木委員、今給黎委員、佐藤委員
議 題	（１）会議録の公開について （２）「第 2 向日向市総合計画・後期基本計画」中間成果報告書等について （３）次期総合計画において重点的に取り組むべき施策について
会議資料の名称 及 び 内 容	・会次第 ・資料 1 日向市総合計画審議会条例・委員名簿 ・資料 2 第 3 向日向市総合計画策定基本方針（令和 6 年 4 月改訂版） ・資料 3 市民まちづくりワークショップ通信（第 1 回～第 5 回） ・資料 4 第 2 向日向市総合計画・後期基本計画 中間成果報告書 ・資料 5 第 3 向日向市総合計画・前期基本計画策定のための基礎資料集 ・第 2 向日向市総合計画・後期基本計画 概要版
記 録 方 法	☐ 全文記録 ☐ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☒ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
開会 1. 委嘱状交付 代表して三輪委員に委嘱状を交付。 2. 市長あいさつ 3. 会長・副会長の選任について 会長に三輪委員、副会長に桑野委員を事務局案として提案し、承認された。 4. 「第 3 向日向市総合計画・前期基本計画」の策定について（諮問） 三輪会長に諮問書を交付。 5. 会長あいさつ 6. 第 3 向日向市総合計画策定基本方針について ※資料を基に事務局より説明。 7. 審議	

（１）会議録の公開について

※審議会の会議録は、会議終了後１か月以内に市ホームページで公開する旨を事務局より説明。

（２）「第２次日向市総合計画・前期基本計画」中間成果報告書等について

※資料を基に事務局より説明。

【質疑】

委員：事務局へのお願いになるが、事前を送付された会議資料が多く、読み込むのに時間がかかった。

基本的な事項を掲載した資料だと理解が深めやすいと思う。

会長：貴重なご意見として受け止めたい。できるだけシンプルにわかりやすいよう進めていきたい。

（３）次期総合計画において重点的に取り組むべき施策について

※前期基本計画の期間である令和７年度から令和１０年度までの４か年で、日向市が特に重点的に取り組むべき施策について、各委員より提言。発言順に付番している。

委員①：１０年前に消滅可能性都市が公表され、国と地方自治体で地方創生の取り組みを行ってきた。

その後、宮崎県内の２６市町村のうち、１５市町村が消滅可能性都市だったのが９市町村となり、改善の傾向が出てきている。日向市の場合は社会増減対策、転入を増やし、転出を減らすという取り組みが重要ではないかと考えている。

委員②：事業展開をしていく中で役員の高齢化により事業の拡大が固定化している現状にある。

これまでは無償ボランティアで協力を求めているがこれからは有償ボランティアで地域福祉をどう進めていくかが大事だと考えている。また、地域の高齢化率も高まっており、地域の文化継続も厳しい状況にある。区長公民館長連合会とも連携しながら地域共生社会がどうあるべきかについて考えることが必要だと思う。

委員③：不登校児の支援について。小中学校でタブレットが１人１台支給されているが自宅に持ち帰れないため活用できない状況にある。加えて、ソーシャルワーカーが日向市に２人しかいないため人数を増やし、気軽に相談できる体制を整えてほしい。もっと子どもに選択肢を与える環境ができることで地域に子どもが残りやすくなると思う。

委員④：子どもたちをどう育てていくか、保護者にどう育ててもらうかがこれからの重要な課題だと思う。これまで日向市ではハード面について多くの行政施策を取り組んでいるが、ソフト面をしっかり作っていく必要があると思う。子育て支援に対しても事業をするだけではなく、本人たちがどう活用するかという視点も大事だと思う。子どもたちが育ちやすい地域をいかに作っていくのかというところが大きなポイントになってくると考えている。

委員⑤：人口減少と脱炭素、カーボンニュートラルがポイントだと思う。循環型経済をどう作っていく

かが大きい。人口減少について、若者が戻ってくるために必要な施策はジェンダー平等だと言われている。女性が戻ってこないのは、自分の学んだこと、いろんなことが生かされないので戻れず、大事な資源が外に出て行ってしまう状況になる。ジェンダー平等、男女共同参画は戦略的に取り組む必要がある。生活の中ではなく、ビジネスや経済にダイバーシティ経営をどう組み込んでいくのが大事だと思う。

委員⑥：日向市のポテンシャルは細島港だけではないと感じている。海、山、川と子どもたちが育つポテンシャルも高く、それを活用できているのかという視点を持って施策を進めるべきだと思う。また、児童クラブについても県内九市の中で小学6年生までの受け入れをしていないのは日向市だけ。経済を回そうとして企業誘致をしても、結局は働ける人が働けない環境になっている。日向市に住み続けてくれる環境を私たち大人がつくって提供していく、そういった計画を作るべきだと思う。

委員⑦：昨年10月から行っていた、まちづくりワークショップにも参加させてもらった。その際、ぶらっとバスのオンデマンド化を提案したが、今回、重点戦略の1つに掲げてもらいたい。また、給食費の無償化についても短期目標として挙げてもらいたい。日向市に引っ越してきて5年たつが、ごみ収集日にごみステーションのごみをカラスがついばんでいるのが汚かったのが、引っ越してきてから印象的だった。そのためごみの有料化についても考えていい時期にあると思っている。これらのことを挙げていくと、やはり日向市が稼げる自治体でなければいけないと考えている。

委員⑧：仕事と結婚で日向市民となって1年ほどになる。これまで宮崎市、都城市、延岡市と住んできたが、食べ物もおいしく、人も優しい住みやすいまちだと感じている。稼ぐ自治体として地域商社を日向市で作ってみてはと考えている。また、日向市では事業者を伴走型で支援する施設もあり、これまで私が生活してきた自治体の中で最もそういう部分が強いと感じている。

委員⑨：昨年4月から市のDX共創アドバイザーをさせて頂いている。現在東京で働いているが、日向市は人、もの、自然が非常に素晴らしいと改めて感じており、全国に知らしめて恩返しをしたいと考えている。ITの力でデジタルを投入してDXを実現したいと考えている。

委員⑩：市長の言われている稼ぐ自治体についてはぜひ実現していただきたい。また、給食費無償化や土地規制の撤廃についても市民の声でもあると思う。現在の総合計画では市民協働について弱いと感じているので、まちづくり条例、地区の活動や絆を増やしていくことを目指した計画をお願いしたい。

委員⑪：労働者を代表して参加しているが、私たち労働者としてはまず、労働者不足に困っている。転入者などで日向市の人口を増やし、労働者を増やしていくような努力をしてもらいたい。

委員⑫：人口減少対策については安定的な収入の増加が必要だと考えている。働く場所の提供のためには、企業をつくる、呼ぶ、なくさないの3つだと思う。つくるは創業、呼ぶは企業誘致、なくさないは後継者への引継ぎ。金融機関にはセンシティブな情報や公にできない情報が集まってくるので、我々が持っている情報を行政と共有しながら何ができるか取り組んでいきたいと思っている。

委員⑬：求職者の6割弱が45歳以上、4割弱が65歳以上の高齢者という割合になっており、年々増加している。このような方々の活躍の場を日向市、企業の理解をもらいながら、どのような取り組みができるかが課題として捉えている。

次に若い世代の労働力の確保が大事だと考えており、対象となる高校生がどのような考えを持っているかを把握するのが重要ではないかと考えている。今後、学校の協力を得ながらアンケートを実施し、人材確保につなげる取り組みにできないか検討している。

委員⑭：稼ぐ手段として観光があるが、日向市民に観光地としての意識醸成をしていくことが重要だと考えている。また、デジタルノマド特区にも取り組んでみてはどうかと考えている。

委員⑮：市内でイベントがある際、市民が参加していないと感じる。市民の意識改革をするためには、まずそこに取り組むべきだと考えている。

委員⑯：東郷町では高齢化が進み空き家もどんどん出てきている。空き家の改装に補助金を出すとか新たな展開をしてもらうことで都会からUターンしたいまちづくりができるのではないかと考えている。市民の方が真剣になって取り組めば良くなっていくと思う。

会長：私個人としては、よそとは違うレアなまちづくりを考えていきたいと思っており、そのために2、3歩踏み込んだ内容を計画にするべきではないかと考えている。究極は市民が幸せに暮らすことに尽きると思うが、自分のものさしをどう作っていくのが大事だと思う。この審議会でも、今後様々な意見を交換できるような場にしてきたい。

8. 今後のスケジュール

※資料を基に事務局より説明。

閉会